

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

あづまぢの道のはてよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、
 ①いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひはじめけること
 にか、世の中に物語といふものあんなるを、②いかで見ばやと
 思ひつつ、Aつれつれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやう
 の人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところ
 どころ語るを聞くに、いとどBゆかしさまされど、わが思ふまま
 に、③そらにいかでおぼえ語らむ。いみじくC心もとなきまま
 に、等身に薬師仏を造りて、手洗ひなどして、人まにみそかに
 入りつつ、「京にとく上げWて、物語の多くXなる、ある限り見
 せ給へ。」と、身を捨てて額をつき、④祈り申すほどに、十三に
 なる年、上らむとて、⑤九月三日、門出して、いまたちといふ所
 に移る。
D年ころ遊びなれつる所を、あらはにこほち散らして、たち騒
 ぎて、日の入りぎはの、いとEすごく霧りわたりたるに、車に乗
 るとて、うち見やりたれば、人まには参りつつ、額をつきし薬
 師仏の立ちYるを、見捨てZ、悲しくて、人知れず⑥うち泣かれ
 ぬ。

- (1) ……A～Eの語句の意味を答えなさい。
 (2) 本文のWからZには、「給ふ」「奉る」「候ふ」のいずれかが入る。それぞれ、適切な形に直して入れなさい。

(3) — ①②③を口語訳しなさい。

(4) — ④について、筆者が祈ったことを説明しなさい。

(5) — ⑤の読みを、現代仮名遣いで答えなさい。

(6) — ⑥について、筆者が泣いた理由を説明しなさい。

(7) 本文の内容に合致するものを、次のア～エから選り記号で答えなさい。

ア 筆者に物語を読んでほしいと頼まれた姉や継母などは、いつも快く応じた。

イ 筆者は薬師仏を作ってもらい、人のいない時にこっそり礼拝した。

ウ 筆者が礼拝してきた薬師仏は、門出の日に、乱暴に取り片付けられてしまった。

エ 門出の日、上京の願いが叶った筆者は泣きながら喜んだ。
 (8) 次の文章の ア カ に適切な語を入れなさい。

本文は、『ア』に収められている。『ア』は、『イ』時代後期、ウ によって書かれた。

また、本文中の「光源氏」は、『エ』時代中期、『オ』によって書かれた『カ』に登場する主人公である。

- (1) A することがなく退屈な B 心ひかれる気持ち
 C じれったい D 長年の間 E 物寂しく
- (2) W 給ひ X 候ふ Y 給へ Z 奉る
- (3) ① どんなにか田舎びて見苦しかったであろうに
 ② どうにかして見たいものだと思いついて
 ③ どうしてそらんじて語ってくれようか、いや語ってくれはしない。
- (4) 早く上京して、たくさんの物語を見たいということ。
 (5) ながつきみか
 (6) 熱心に礼拝してきた薬師仏を見捨てて旅立つのが悲しかったから。
 (7) イ
 (8) ア 更級日記 イ 平安 ウ 菅原孝標女
 エ 平安 オ 紫式部 カ 源氏物語